

宮崎市立住吉小学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は、宮崎市の北部に位置する児童数735名（1年5学級，2年4学級，3年4学級，4年3学級，5年4学級，6年4学級，特殊2学級）の大規模校である。校区は、のどかな農業地帯で、今も学校周辺には田園風景が広がり、市内有数の農業地域として緑豊かな環境が残っている。しかし、一方で年々道路の整備や宅地化が進み、幹線道路沿いを中心に郊外型商店や商業施設が建ち並び、周辺の交通量もたいへん多くなってきている状況である。

本校では、本年度の教育的課題として、次のような項目を掲げ教育活動の推進に努めている。

- (1) 子どものよさや可能性を引き出し、確実に学力の向上を図る教育の充実
- (2) 豊かな感性を育てる心の教育の充実
- (3) 児童理解のもとにきめ細かな生徒指導の充実と基本的生活習慣の確立
- (4) 健康安全に対する自己管理能力の育成と安全な教育環境の整備と充実
- (5) 家庭や地域との連携を図る教育の充実等

2 児童の実態

本校の算数科の平成16年度 CRT テスト結果は以下の通りであり、学年でばらつきはあるものの、「図形領域」及び「数量関係」を除いて全国平均かそれを上回る結果であった。しかしながら、問題を筋道立てて考えたり、自分の考えを進んで発表したりする事が苦手な児童も多く、思考力や表現力等は十分育っているとは言いがたい。また、学びの基礎力としての家庭での生活習慣や学習習慣等に関しても、まだ多くの課題が見られるのが現状である。

【平成16年度 教研式 CRT テスト 算数科 (平成17年1月19日実施)】

学年	数と計算 (全国比) (全国=100)	量と測定 (全国比) (全国=100)	図形 (全国比) (全国=100)	数量関係 (全国) (全国=100)
1	98	99	100	
2	102	102	97	
3	100	102	94	99
4	107	113	101	94
5	102	102	99	107
6	99	99	103	105
平均	101.3	102.8	99	101.2

3 学力向上に向けた経営方針

本校では、2学期制を生かした確かな学力の育成を目指して、教育課程及び教育課程外を含めた教育活動の見直しを行うとともに、学習を支える読み・書き・計算・読書等の基礎的・基本的事項を徹底指導し、児童にやればできるという自信をもたせ、一人一人の最大限の可能性を引き出せるよう、各校務部及び各学年において学力向上のための取組を下記のように設定し、具体的に進めているところである。

【17年度 校務部及び学年による学力向上アクションプラン】

保健体育部	学 習 部	教務部・研究部
<p>1 学力向上のための生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活習慣確立のための保護者への啓発活動 ・生活習慣アンケート実施 ・プリントの配布 ・ホームページ作成 ○ 日課表を使っでの生活習慣の確立 ・日課表のモデル作成 ・朝食の時間の確保 ・テレビ視聴時間の制限 ・学習時間の確保 ・睡眠時間の確保 ○ 評価カードの作成 ○ 生活習慣強化週間の実施 <p>2 食の見直し「赤・黄・緑でグー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養指導 ・給食時間の献立を使っでの栄養指導 ・栄養士との TT による食に関する授業実践 ○ 朝食の在り方 ・朝食内容の見直し ・家庭との連携 <p>3 体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上プランの実践 ・スポーツテストデータの活用 ・施設設備の整備の充実 ・業間活動の充実 ・サーキットトレーニングの具体的計画立案と実施 	<p>1 朝の活動 (読書・漢字・計算・英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字チャレンジテスト ・月2回、木曜の朝の活動 ・学年ごとの内容をふまえたテストで、6年間を通しての検定テストにする。他の学年の内容も可 ・がんばりカードの活用 ○ 計算チャレンジテスト ・毎週火曜の朝の活動 ・自校作成の計算チャレンジシートを活用する。それぞれの学年で達成率を設定して取り組む。 <p>2 個別指導の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日放課後 25 分 ・チャレンジシートの活用 <p>3 読み声活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で取り組み、カードの形式も各学年で作成 <p>4 読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で数値目標を徹底 ・担任が朝の活動や帰りの会で、ブックトークをする。 ・夏休み明け、1学期末、2学期末に多読賞を与える。 ・「おすすめの本」を読んだ冊数ごとに認定証 ・読書カードを作成し、記録し、活用する。 ・読書の日の奨励 <p>5 家庭学習の手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低、中、高学年別に家庭学習の手引きを作成し、家庭との連携を進めながら家庭学習の充実を図る。 	<p>1 授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習の充実を図り、体験的な学習活動を生かした授業プランを推進する。 <p>2 基礎・基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語，社会，算数，理科で単元終末の授業で確認テストを実施する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 確認テストでの通過率各学年平均 85 %以上，CRTでの達成状況が各学年（3年以上）で前年度比アップを図る。 <p>3 基礎学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の時間を利用した計算・漢字のスキル学習と放課後に位置づけた個別指導の時間で行う補充指導により基礎学力の定着を図る。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 算数チャレンジシート1回目の通過率 80 %以上，校内漢字検定の1回目合格率 80 %以上を達成する。 <p>4 読書指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の時間を利用した読書タイム・読み聞かせの実施と全校読書カードの活用，校内推薦図書奨励の取り組みを通して読書習慣の定着を図る。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年間読書冊数が，1年 30 冊以上，2年 50 冊以上，3年 40 冊以上，4年 30 冊以上，5・6年 20 冊以上を達成する。 <p>5 授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 算数科の研究授業を中心に問題解決的な学習及び少人数指導の授業改善に取り組み，授業の充実を図る。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業後の振り返りカードで行う「授業の理解度」に関する項目の達成率 90 %以上を達成する。
<p>各 学 年 の 学 力 向 上 に 関 す る 数 値 目 標</p>		

学 力 向 上 分 析 ・ 評 価

4 教育課程内の取組

(1) 校内研修における算数科を中心とした授業改善

研究主題「ステップアップ 住吉っ子！ 広げよう 自分の可能性」のもと、算数科における問題解決的な学習及び少人数指導の授業改善に取り組み、個に応じた指導法の在り方や、評価の在り方等について研究を進めている。

① 個に応じた指導の工夫

算数科では問題解決的な学習過程を基本とし、「つかむ」・「見通す」・「深める」・「まとめる」の5段階で授業実践を進めている。また、指導過程の各段階で、次のような個に応じた指導の工夫を行った。

<つかむ段階>

- 既習事項を復習し、本時学習に生かす。
- 具体物・半具体物・視聴覚機器を使って、問題の掲示を工夫する。
- 既習事項をもとに、学習の見通しを持たせる。

<調べる段階>

- 自力解決の時間を十分に確保する。
- 自力解決が終わった児童には、根拠を明らかにして説明できるように整理させる。また、他の方法がないか考えさせる。

- 自力解決が困難な児童には、教師支援によるグループ学習やワークシート、ヒントカードの活用などの手立てを準備する。

<深める段階>

- 児童の学習状況に応じた練習問題や発展的な問題を用意する。
- 本時の学習課題に対する自己評価を行わせ、次時への指導に生かす。

② 少人数・習熟度別学習の単元配当計画

3年生から6年生まで少人数・習熟度別学習に取り組んでいる。より効果的な指導ができるように、年間を見通して、どの単元で、どのような指導体制（一斉、少人数、習熟度別）で行うか、予め計画を立てて取り組んでいる。

③ 各学年における評価規準表の作成

本校では、算数科における1時間ごとの評価規準を2単元分を作成し、研究授業等によりそれを用いて実践していくことで「指導と評価の一体化」を図り、確かな学力を育てていくこととした。

④ 学習状況評価一覧表

各学年で作成した評価規準表での到達目標に沿って、一人一人の児童を評価し、1単位時間において、どの児童が目標に到達できたかが把握できるようにするために一覧表を作成し、授業研究等で活用することにした。記入の仕方は目標に到達できたか否かで記入するようにし、日々の授業の中で、簡単に評価できるようにした。

【自作DC(デジタルコンテンツ)によるヒント提示】



【自分の考えをグループに広げる】



5 教育課程外の取組

(1) 朝の活動（スキルタイム）

毎週火曜日と木曜日の8時15分から8時30分の15分間に自作プリントによる漢字・計算練習を行い、漢字検定、計算チャレンジを通して基礎学力向上を図っている。

(2) 放課後における個別指導

毎週火曜日の15時5分から15時30分の25分間に、朝のスキルタイムと連動させながら国語や算数科においてつまづいている児童の補充指導や習熟を図る指導を行っている。

(3) 読書指導の充実

- ① 読書の日を設定し、学校での読書の推進及び家庭との協力体制作りに努めている。
- ② 推薦図書の設定と認定証の発行

読書奨励とともに、各学年における校内推奨図書（「おすすめの本」）を設定し、これらの中から10冊読むごとに児童に認定証を授与するようにしている。

6 保護者、家庭、地域との連携

(1) 生活習慣アンケートの実施

本年度6月に児童への生活習慣アンケートを実施し、学校保健委員会と7月の参観日において、その結果を報告し、その改善策について話し合いをもった。

(2) 生活習慣確立のための啓発プリントと生活習慣と学力の関係について解説した資料を保護者へ配付し、正しい生活習慣形成に向けた取組について理解を促した。

(3) 日課表の作成

児童の正しい生活習慣の確立のために、日課表のモデルを基に個人の日課表を作成させ、それを基に生活をさせることで、睡眠時間の確保、朝食の確保、テレビ視聴時間の制限、学習時間の確保等を行うことにした。

(4) 家庭学習の手引きの配付

低・中・高学年別に家庭学習の仕方を記したプリントを配付し、家庭での学習の推進を図ることにした。

【児童作成用の日課表】

	午前					午後							
	5時	6時	7時	8時	9時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時
内													
容													

7 成果と課題（次年度の取組も含む）

(1) 成果

- 授業の中で「個に応じた指導」としての手立てを工夫することで、理解が不十分な児童に対する指導を具体的に行うことができ、児童の理解度も増してきた。
- 各部及び各学年の学力向上アクションプランの具体化により、学習を支える基礎的・基本的事項の習得率や学習への取組に対する児童の意識の向上が見られるようになった。

(2) 課題

- 学力向上アクションプランのさらなる工夫・改善を図り、学力の向上を図りたい。
- 問題解決的な学習や体験的な学習をさらに充実させて、児童の思考力や表現力のさらなる育成を図りたい。